

帝王健在！ 12 時間制覇

木村佳司

日本ロゲイニングチャレンジ菅平大会 2008 年 9 月 14 日 長野県上田市

ロゲイニング日本国内最高
峰大会の菅平を制したのは
チームだいまると銀シャリ。

2008 年 9 月 14 日 長野県上田市
日本ロゲイニングチャレンジ菅平大会

12 時間の部 混合/女子 満点 2331 点)

- | | |
|--------------|--------|
| 1 銀シャリ | 1962 点 |
| 2 チーム おだーず | 1938 点 |
| 3 ワイルドライフ | 1905 点 |
| 4 ムッシュココベリ | 1890 点 |
| 5 オカシナ部 | 1716 点 |
| 6 Team SKI-O | 1716 点 |



ロゲイン 12 時間混合で優勝した「銀シャリ」。激戦の混合の部で常に上位に居る。

12 時間の部 男子 満点 2331 点)

- | | |
|-----------------|--------|
| 1 チームだいまる | 2331 点 |
| 2 Team 回峰行 | 2126 点 |
| 3 Eight men | 2079 点 |
| 4 東工大美術部 | 2048 点 |
| 5 静陵会 RUN RUN 部 | 1758 点 |
| 6 目指せ 90 | 1555 点 |



ロゲイン 12 時間男子で優勝した「チームだいまる」。柳下 (左) と円山 (右) によるチーム。2 名とも有名オリエンティアだが、最近ではトレイルラン競技でも実績を残している。

満点獲得！ 帝王軍

帝王がやってくれた。12 時間の部で設定されたコントロールを全部回ってきたのだ。制限時間を全部使い切って、参加チームで唯一の快挙を成し遂げた。

ロゲイン大会では参加者がすべてのコントロールを回ることが不可能なほどの広範囲な地域を使った競技を提供



ロゲイン 3 時間の部のスタート直後、ダボスの丘に向かって駆け上がる競技者の群れ。

この丘の向こうには高原の素晴らしい風景が待っている。

ロゲイン 3 時間の部への参加者は、走る気マンマンのオリエンティアやトレイルランナーから、子供を連れた参加者、夫婦での参加者など幅広い。

するのが普通だが、「チームだいまる」はそのコースを上回る能力を発揮した。

標高 1600m の菅平牧場、日本百名山の四阿山、群馬県側のスキー場、米子大瀑布、草原が広がるダボスの丘、高原野菜いっぱいの菅平高原、大松山。その移動量は想像を超える。

快走！3 時間の部

今年から 3 時間の部の参加者が増加に転じた。「ロゲイン 3 時間の部」の競技の性格は、ちょうどオリエンタリングとトレイルランとハイキングの中間に位置するだけでなく、体力、経験が異なる参加者層が同じ舞台上で競い合う事ができる。

当日は天候がよく、初秋の菅平高原を気持ちよく歩き、走ることができた。

3 時間の部 女子 18 歳未満

- | | |
|--------|-------|
| 1 木村 梓 | 242 点 |
|--------|-------|

3 時間の部 女子 18-50 歳

- | | | |
|--------|-------|-------|
| 1 小林美幸 | 長野 | 786 点 |
| 2 坂井絵美 | 米人 | 748 点 |
| 3 三村直美 | HOBOS | 623 点 |

3 時間の部 女子 50 歳以上

- | | | |
|--------|--------|-------|
| 1 堀本 睦 | 静岡 OLC | 436 点 |
|--------|--------|-------|

3 時間の部 男子 18 歳未満

- | | | |
|--------|--------|-------|
| 1 羅田政和 | 武相 OLK | 754 点 |
| 2 永原 耀 | 武相 OLK | 717 点 |
| 3 栗田欣喜 | 武相 OLK | 678 点 |

3 時間の部 男子 18-50 歳

- | | | |
|--------|-------|--------|
| 1 菅原 琢 | 多摩 OL | 1105 点 |
| 2 吉本直人 | | 981 点 |
| 3 柳 智幸 | ちーむねこ | 953 点 |

3 時間の部 男子 50 歳以上

- | | | |
|---------|---------|-------|
| 1 海老沢 正 | チーム山伏 | 865 点 |
| 2 小野賢二 | 多摩 OL | 834 点 |
| 3 藤原三郎 | 山梨骨骨クラブ | 830 点 |



招待選手の井上真悟（国境なきランナーズ）。本大会実行委員長の樺澤氏と2007年のサハラマラソンにて過酷な一週間を共に過ごした。ロゲイン・オリエンテーリング初参加にして3時間の部6位の成績は見事。

山岳競技へのこだわり

毎年開催している菅平ロゲインだが、その開催方法はいまだ手探りだ。日の出から日没までの12時間を競う「12時間の部」のコースも毎年大きく変わっている。

昨年の12時間の部では湯の丸山という全く違う山系を範囲に加えた競技だった。だが山系を移動するのに1時間ほどロード走行区間が入っていた。

今年のコースはその反省を踏まえ、菅平高原直近の根子岳・四阿山山系と菅平高原外輪山だけでコースが組まれた。巨大なひとかたまりの山系で競技を行うため、ロード走行区間が少なく、山岳競技としての面を強く出したコース設定だ。

そのぶんコース全体がコンパクトになっており、トップ競技者にはすべてのコントロールを突破されてしまう可能性があった。



スタート10分前に地図が公開される。これからの3時間の戦略を立てる参加者

初秋はハチに注意

たまたま今年の競技はトラブルが多発し、運営者はその対応に追われた。

まず、参加者数名がハチに刺されるという被害が発生した。次々携帯電話から入るハチの被害。関係者の情報から被害箇所を推定し、現地に役員を派遣した。そこは参加者の半数以上が通過するルート上。そこにジバチ（地蜂）の巣が発見された。役員が駆けつけたところ、現場では興奮したハチたちが、そこら中を飛び回っていたという。

役員を現地に立て、ハチを刺激しないよう迂回して競技してもらった。

アドベンチャー系から参加されたかたはポイズンリムーバを携帯して競技されているかたも多く、参加者同志で応急処置が行われた。

骨折、標高2000mから搬出

競技ともなれば思わぬ怪我也も発生する。山頂近くの標高2000m付近で転倒した競技者が足を骨折。自力下山が不能となるトラブルが発生した。

運営側から登山家のエキスパート3名が現地に急行し、怪我人を搬送した。3人で騎馬を組み、数kmを運ぶのはかなりの時間がかかったようだ。

骨折箇所以外のケガは無く、振る舞いも含めて全く元気であったことが幸いだった。

安全の観点から12時間の部では必ず2名以上での出走と、電話の携帯を義務化している。今回それが有効に働いた。



骨折した参加者。山からの搬送は日没を過ぎ、病院治療を終えて会場ホテルに戻ってきたのは夜半過ぎ。

2009年はクラブカップとコラボ

次回の菅平ロゲインはクラブカップの翌日に同じ菅平高原の隣接地で開催される。2009年のシルバーウィーク5連休は秋の高原を堪能できそうだ。

2009年シルバーウィーク

9月19日（土）ダウンヒルミッドレ0

9月20日（日）クラブカップ

9月21日（祝）菅平ロゲイン3時間の部

9月22日（休）菅平ロゲイン12時間の部

9月23日（祝）（予定なし）

（木村佳司）



菅平ロゲインの運営メンバー。以前はオリエンティア中心だったが、今はアドベンチャー、トレイルラン系メンバーが主力となりつつある。